

古代武蔵国の新羅郡と 高麗郡の成立の背景を探る!

▶和光市の
漆台遺跡から
出土した
円面硯



▲和光市の峯前遺跡
から出土した灰釉陶
器。高台の内に「守」
の墨書が見える



▲和光市の花ノ木遺跡の掘立柱建物跡

今回は視点を武蔵国に置き、対比すべき古代新羅郡の建郡の実態を論議し、古代高麗郡建郡の背景についてさらに理解を深めます。



こま
高麗郡
▶古代の武蔵国(緑色)
の郡マップ。武蔵国は今
の埼玉県、東京都と、
神奈川県の一部にあたる

しらが
新羅郡
(新座郡)

| | |
|-------|--|
| 12:30 | 受付 |
| 13:00 | 開会あいさつ |
| 13:15 | 講演Ⅰ 「武蔵国の新羅郡の遺跡」(考古) 講師 鈴木一郎：和光市教育委員会 |
| 13:45 | 講演Ⅱ 「遺跡出土土器からみた新羅郡の実態」(考古) 講師 根本 靖：所沢市教育委員会 |
| 14:15 | 講演Ⅲ 「武蔵国からみた新羅郡と高麗郡の建郡」(考古) 講師 加藤恭朗：元坂戸市教育委員会 |
| 14:45 | 講演Ⅳ 「武蔵国新羅郡建郡の歴史的背景」(文献) 講師 柿沼亮介：早稲田大学高等学院教諭 |
| 15:25 | 休憩(自由) ※質問票回収 |
| 15:40 | パネルディスカッション 「古代新羅郡と高麗郡の成立 ~その実態をめぐって~」 鈴木一郎/根本 靖/加藤恭朗/柿沼亮介 コーディネーター 中野高行：日本高麗浪漫学会理事 |
| 16:30 | まとめ/ 閉会あいさつ |

期日 2019年12月15日 日
13:00~16:40

会場 日高市生涯学習センター
(地図裏面)

定員 150名(申し込み先着順)

参加費 (資料代等) 一般700円(「高麗1300」会員は500円)

申込み 11月5日(火)より(一社)高麗1300へ①電話
②FAX③E-mail ④ホームページ のいずれかで。
先着順に受け付けます(お名前・連絡先・住所等)。
※ホームページはトピックス記事の「申込みフォーム」から。

- ① 電話 042-978-7432
- ② FAX 042-978-7452
- ③ E-mail info@komagun.jp
- ④ ホームページ http://komagun.jp

Message

講演Ⅰ

鈴木一郎：和光市教育委員会

武蔵国の新羅郡の遺跡

1990(平成2)年より和光市教育委員会に勤務し、以来29年、文化財担当として、和光市内の遺跡発掘調査に携わる。特に弥生時代の環濠集落遺跡の「午王山遺跡」の調査に深く関わる。「吹上遺跡・花ノ木遺跡」では、奈良・平安時代の集落調査を行っている。

2018年、和光市で「新羅郡の時代を探る」として、展示会とシンポジウムを開催いたしました。その際、一般社団法人高麗1300の事務局にご協力いただきました。今回は、その時の展示会とシンポジウムで明らかになった新羅郡域の遺跡と、発掘調査により進んだ研究成果の現状を紹介したいと考えております。

講演Ⅲ

加藤恭朗：元坂戸市教育委員会

武蔵国からみた新羅郡と高麗郡の建郡

新羅郡と高麗郡の建郡前と建郡後の遺跡の動向を主眼に置いて、両郡建郡の共通性と性格の相違性について考えていきたい。

共通項として挙げられることは、ともに入間郡の一部に新たな郡を建郡したこと、空闲地を利用したこと、ともに二郷以下の小郡であったことなどであろう。建郡の目的の一つに、空闲地を開発し耕作地の拡大を図ったと考えられるが、単純に日高・飯能の遺跡が耕作地を拡大していったとは言えない。

建郡前から建郡後の遺跡の動向についても、共通点はいくつもあるが、拡大路線にある坂戸・川越地域とは新羅郡建郡地域は状況が異なるようで、建郡後の遺跡の動向にも違いがみられる。

高麗郡と新羅郡の建郡の共通性と相違性から、建郡の母体となる入間郡についても触れてみたい。

講演Ⅱ

根本 靖：所沢市教育委員会

遺跡出土土器からみた新羅郡の実態

『続日本紀』の記述では、霊亀2(716)年の高麗郡建郡から42年後、天平宝字2(758)年に建郡された新羅郡ですが、その実態は未だに明らかになっていないのが現状です。そこで、新羅郡の実態を少しでも解明するために、新羅郡であったとされる地域にある奈良・平安時代の遺跡から出土した、土器や須恵器といった日常に使われた土器を通して新羅郡を考えてみたいと思います。

新羅郡に生活していた人たちが使っていた食器(土器)は何を物語るのでしょうか? 土器から新羅郡の実態に迫っていければと考えています。

講演Ⅳ

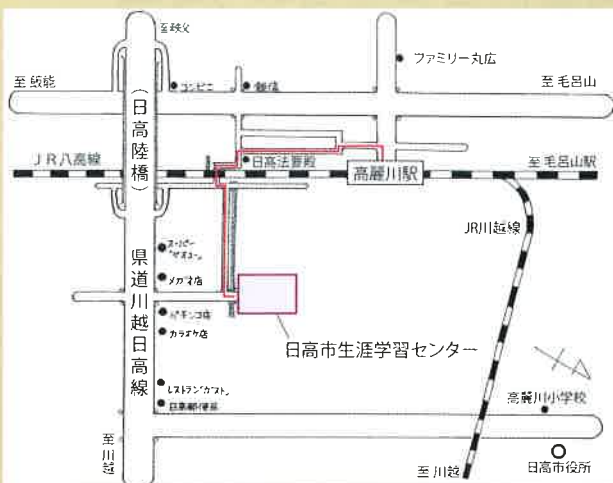
柿沼亮介：早稲田大学高等学院教諭

武蔵国新羅郡建郡の歴史的背景

武蔵国新羅郡は、なぜ建郡されたのでしょうか。この問題について、当時の国際関係や国内事情から迫りたいと思います。

日本と新羅は、7世紀末から頻繁に外交使節を派遣しあっていましたが、新羅が唐との関係を深めるようになった730年代以降、外交上の問題がしばしば表面化して関係は悪化していきました。また、新羅郡が建郡された758年当時、日本の政権担当者は藤原仲麻呂でしたが、仲麻呂政権下では新羅征討が計画されて船や兵士の準備が進められるなど、新羅に対して強硬な政策がとられました。

新羅郡の建郡はこのような歴史的背景の下で行われたのです。では、そのことと「新羅」という国名を冠した郡を建てることにどのような関係があるか、高麗郡などの事例と比較しながら考えていきます。



【会場までの交通案内】

日高市生涯学習センター

埼玉県日高市鹿山370-20 ☎042-985-5121

- 徒歩 JR高麗川駅より約7分(タクシーで約5分)
- 車 県道川越日高線の日高郵便局の交差点より約1分
- 駐車場 約50台(障がい者用あり)

※駐車場は限りがあります。できるだけ公共機関をご利用ください。

【お問い合わせ】

一般社団法人 高麗1300 (日本高麗浪漫学会) 事務局

☎042-978-7432 〒350-1243 埼玉県日高市新堀 855-3

E-mail info@komagun.jp ホームページ http://komagun.jp